



Sun Cluster Data Service for Siebel ガイド (Solaris OS 版)

SPARC 版

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-2098-11
2005 年 8 月, Revision A

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2、Java は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。©Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. ©Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行っています)。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザーインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun Cluster Data Service for Siebel Guide for Solaris OS

Part No: 819-0699-11

Revision A



050805@12762



目次

はじめに 5

Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成 11

Sun Cluster HA for Siebel の概要 11

Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成 12

Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成の計画 13

構成に関する制限事項 13

構成に関する要件 14

データサービスの標準構成 14

構成計画に関する質問 15

ノードとディスクの準備 16

▼ ノードを準備する 16

Siebel アプリケーションのインストールと構成 18

Siebel ゲートウェイのインストール 18

▼ 広域ファイルシステムに Siebel ゲートウェイをインストールする 19

▼ 物理ホストのローカルディスクに Siebel ゲートウェイをインストールする 19

Siebel サーバーと Siebel データベースのインストール 21

▼ 広域ファイルシステムに Siebel サーバーと Siebel データベースをインストールする 21

▼ 物理ホストのローカルディスクに Siebel サーバーと Siebel データベースをインストールする 22

Siebel のインストールと構成の確認 24

▼ Siebel のインストールと構成を確認する 24

Sun Cluster HA for Siebel パッケージのインストール 25

▼ Web Start プログラムを使って Sun Cluster HA for Siebel パッケージをインストールするには 25

| | |
|---|-----------|
| ▼ scinstall ユーティリティを使用して Sun Cluster HA for Siebel パッケージをインストールする | 27 |
| Sun Cluster HA for Siebel の登録と構成 | 27 |
| Sun Cluster HA for Siebel 拡張プロパティの設定 | 27 |
| ▼ Sun Cluster HA for Siebel をフェイルオーバーデータサービスとして登録して構成する | 28 |
| ▼ Siebel サーバーを登録して構成する | 29 |
| Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成の確認 | 31 |
| ▼ Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成を確認する | 31 |
| Sun Cluster HA for Siebel の保守 | 32 |
| Sun Cluster HA for Siebel 障害モニターの調整 | 32 |
| Siebel サーバーの障害モニターの動作 | 33 |
| Siebel ゲートウェイの障害モニターの動作 | 34 |
| | |
| A Sun Cluster HA for Siebel 拡張プロパティ | 35 |
| SUNW.sblsrvr 拡張プロパティ | 35 |
| SUNW.sblgtwy 拡張プロパティ | 37 |

| | |
|----|----|
| 索引 | 39 |
|----|----|

はじめに

『Sun Cluster Data Service for Siebel ガイド (Solaris OS 版)』は、Sun™ Cluster HA for Siebel のインストールと構成について説明します。

このマニュアルは、Sun のソフトウェアとハードウェアについて幅広い知識を持っている上級システム管理者を対象としています。販売活動のガイドとしては使用しないでください。このマニュアルを読む前に、システムの必要条件を確認し、適切な装置とソフトウェアを購入しておく必要があります。

このマニュアルで説明されている作業手順を行うには、Solaris™ オペレーティングシステム (Solaris OS) に関する知識と、Sun Cluster ソフトウェアと使用するボリューム管理ソフトウェアに関する専門知識が必要です。

UNIX コマンド

このマニュアルでは、Sun Cluster データサービスのインストールと構成に固有のコマンドについて説明します。このマニュアルでは、UNIX® の基本的なコマンドや手順 (システムの停止、システムのブート、デバイスの構成など) については説明していません。基本的な UNIX コマンドに関する情報および手順については、以下を参照してください。

- Solaris オペレーティングシステムのオンラインドキュメント
- Solaris オペレーティングシステムのマニュアルページ
- システムに付属するその他のソフトウェアマニュアル

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

| 字体または記号 | 意味 | 例 |
|------------------|---|--|
| AaBbCc123 | コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。 | <code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を使用してすべてのファイルを表示します。 <code>system%</code> |
| AaBbCc123 | ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。 | <code>system% su</code> <code>password:</code> |
| <i>AaBbCc123</i> | 変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。 | ファイルを削除するには、 <code>rm filename</code> と入力します。 |
| 『』 | 参照する書名を示します。 | 『コードマネージャー・ユーザーズガイド』を参照してください。 |
| 「」 | 参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。 | 第5章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。 |
| \ | 枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。 | <code>sun% grep '^#define \</code> <code>XV_VERSION_STRING'</code> |

コード例は次のように表示されます。

■ C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

■ C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

関連マニュアル

関連する Sun Cluster トピックについての情報は、以下の表に示すマニュアルを参照してください。すべての Sun Cluster マニュアルは、<http://docs.sun.com> で参照できます。

| トピック | マニュアル |
|---------------|---|
| データサービス管理 | 『Sun Cluster データサービスの計画と管理 (Solaris OS 版)』 各データサービスガイド |
| 概念 | 『Sun Cluster の概念 (Solaris OS 版)』 |
| 概要 | 『Sun Cluster の概要 (Solaris OS 版)』 |
| ソフトウェアのインストール | 『Sun Cluster ソフトウェアのインストール (Solaris OS 版)』 |
| システム管理 | 『Sun Cluster のシステム管理 (Solaris OS 版)』 |
| ハードウェア管理 | 『Sun Cluster 3.0-3.1 Hardware Administration Manual for Solaris OS』 各ハードウェア管理ガイド |
| データサービスの開発 | 『Sun Cluster データサービス開発ガイド (Solaris OS 版)』 |
| エラーメッセージ | 『Sun Cluster Error Messages Guide for Solaris OS』 |
| コマンドと関数の参照 | 『Sun Cluster Reference Manual for Solaris OS』 |

Sun Cluster のマニュアルの完全なリストについては、お使いの Sun Cluster のリリースノート <http://docs.sun.com> で参照してください。

関連するサン以外の Web サイトの引用

このマニュアル内で引用するサン以外の URL では、補足的な関連情報が得られません。

注 - このマニュアルには、サン以外の団体/個人の Web サイトに関する情報が含まれています。こうしたサイトやリソース上の、またはこれらを通じて利用可能な、コンテンツ、広告、製品、その他の素材について、Sun は推奨しているわけではなく、Sun はいかなる責任も負いません。こうしたサイトやリソース上で、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、製品、サービスを利用または信頼したことによって発生した (あるいは発生したと主張される) 実際の (あるいは主張される) 損害や損失についても、Sun は一切の責任を負いません。

マニュアル、サポート、およびトレーニング

| Sun のサービス | URL | 内容 |
|---------------|---|---|
| マニュアル | http://jp.sun.com/documentation/ | PDF 文書および HTML 文書をダウンロードできます。 |
| サポートおよびトレーニング | http://jp.sun.com/supporttraining/ | 技術サポート、パッチのダウンロード、および Sun のトレーニングコース情報を提供します。 |

問い合わせについて

Sun Cluster をインストールまたは使用しているときに問題が発生した場合は、ご購入先に連絡し、次の情報をお伝えください。

- 名前と電子メールアドレス (利用している場合)
- 会社名、住所、および電話番号
- システムのモデルとシリアル番号

- Solaris オペレーティングシステムのバージョン番号 (例: Solaris 8)
- Sun Cluster のバージョン番号(例: Sun Cluster 3.0)

ご購入先に連絡するときは、次のコマンドを使用して、システムの各ノードに関する情報を集めます。

| コマンド | 機能 |
|--------------------------------|---|
| <code>prtconf -v</code> | システムメモリーのサイズと周辺デバイス情報を表示します |
| <code>psrinfo -v</code> | プロセッサの情報を表示する |
| <code>showrev -p</code> | インストールされているパッチを報告する |
| SPARC: <code>prtdiag -v</code> | システム診断情報を表示する |
| <code>scinstall -pv</code> | Sun Cluster のリリースおよびパッケージのバージョン情報を表示します |

上記の情報にあわせて、`/var/adm/messages` ファイルの内容もご購入先にお知らせください。

Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成

この章では、Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成の方法について説明します。

この章の内容は次のとおりです。

- 11 ページの「Sun Cluster HA for Siebel の概要」
- 12 ページの「Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成」
- 13 ページの「Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成の計画」
- 16 ページの「ノードとディスクの準備」
- 18 ページの「Siebel アプリケーションのインストールと構成」
- 24 ページの「Siebel のインストールと構成の確認」
- 25 ページの「Sun Cluster HA for Siebel パッケージのインストール」
- 27 ページの「Sun Cluster HA for Siebel の登録と構成」
- 31 ページの「Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成の確認」
- 32 ページの「Sun Cluster HA for Siebel の保守」
- 32 ページの「Sun Cluster HA for Siebel 障害モニターの調整」

Sun Cluster HA for Siebel の概要

Sun Cluster HA for Siebel は、Siebel アプリケーションに障害モニターと自動フェイルオーバー機能を提供します。高可用性は、Siebel ゲートウェイと Siebel サーバーに提供されます。Siebel システムでは、Sun Cluster エージェントが動作している物理ノードで Resonate エージェントも動作させることはできません。Resonate と Sun Cluster は、同じ Siebel エンタープライズ内で共存できますが、同じ物理サーバー上では共存できません。

フェイルオーバーサービスの概念については、『Sun Cluster の概念 (Solaris OS 版)』を参照してください。

表 1 Siebel コンポーネントの保護

| | |
|----------------|--|
| Siebel コンポーネント | コンポーネントを保護するデータサービス |
| Siebel ゲートウェイ | Sun Cluster HA for Siebel リソースタイプは SUNW.sblgtwy です。 |
| Siebel サーバー | Sun Cluster HA for Siebel リソースタイプは SUNW.sblsrvr です。 |

Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成

表 2に、Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成に必要な作業を示します。指定された順番どおりに、各作業を行ってください。

表 2 Task Map: Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成

| タスク | 参照先 |
|--|--|
| Siebel のインストールの計画 | 13 ページの「Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成の計画」 |
| ノードとディスクを準備する | 16 ページの「ノードを準備する」 |
| Siebel のインストールと構成 | 19 ページの「広域ファイルシステムに Siebel ゲートウェイをインストールする」 19 ページの「物理ホストのローカルディスクに Siebel ゲートウェイをインストールする」 21 ページの「広域ファイルシステムに Siebel サーバーと Siebel データベースをインストールする」 |
| Siebel のインストールと構成の確認 | 22 ページの「物理ホストのローカルディスクに Siebel サーバーと Siebel データベースをインストールする」 24 ページの「Siebel のインストールと構成を確認する」 |
| Sun Cluster HA for Siebel パッケージのインストール | 25 ページの「Sun Cluster HA for Siebel パッケージのインストール」 |

表 2 Task Map: Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成 (続き)

| タスク | 参照先 |
|--|---|
| フェイルオーバーデータサービスとしての Sun Cluster HA for Siebel の登録と構成 | 28 ページの「Sun Cluster HA for Siebel をフェイルオーバーデータサービスとして登録して構成する」 29 ページの「Siebel サーバーを登録して構成する」 |
| Sun Cluster HA for Siebel インストールと構成の確認 | 31 ページの「Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成を確認する」 |
| Sun Cluster HA for Siebel の保守 | 32 ページの「Sun Cluster HA for Siebel の保守」 |
| Sun Cluster HA for Siebel 障害モニターの調整 | 32 ページの「Sun Cluster HA for Siebel 障害モニターの調整」 |

Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成の計画

ここでは、Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成の計画について説明します。

構成に関する制限事項



注意 - これらの制限事項を守らないと、データサービスの構成がサポートされない場合があります。

ここに示す制限事項を考慮して、Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成の計画を行なってください。ここでは、Sun Cluster HA for Siebel にのみ適用されるソフトウェアとハードウェア構成の制限事項を示します。

すべてのデータサービスに適用される制限事項については、ご使用のリリースの Sun Cluster のリリースノートを参照してください。

- 高可用性は、Siebel ゲートウェイと Siebel サーバーに提供されます。
- Siebel システムでは、Sun Cluster エージェントが動作している物理ノードで Resonate エージェントも動作させることはできません。Resonate と Sun Cluster は、同じ Siebel エンタープライズ内で共存できますが、同じ物理サーバー上では共存できません。

- Sun Cluster HA for Siebel を Sun Cluster HA for Sun Java System Web Server と組み合わせて使用する場合は、Sun Cluster HA for Sun Java System Web Server をフェイルオーバーデータサービスとして構成する必要があります。スケーラブル Sun Cluster HA for Sun Java System Web Server を Sun Cluster HA for Siebel と組み合わせて使用することはできません。

構成に関する要件



注意 - 次の要件を満たさないと、データサービスの構成がサポートされない場合があります。

ここで示す要件に従って、Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成の計画を行なってください。これらの要件が当てはまるのは、Sun Cluster HA for Siebel だけです。Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成を始める前に、次の要件を満たしておく必要があります。

すべてのデータサービスに適用される要件については、『Sun Cluster データサービスの計画と管理 (Solaris OS 版)』の「Sun Cluster データサービス構成のガイドライン」を参照してください。

- 各 Siebel ゲートウェイと各 Siebel サーバーをそれぞれ専用の Siebel ルート環境 (インスタンスごとに専用の `siebenv.sh` ファイルをもつ) にインストールします。こうすると、各インスタンスが相互に独立するので、フェイルオーバーと問題の診断が容易になります。
- 複数の Siebel サーバーで Siebel ファイルシステムを使用する場合は、Siebel ファイルシステムを広域ファイルシステムにインストールします。こうすることによって、すべての Siebel サーバーリソースがどのクラスタノードからでも、同じファイルシステムにアクセスできるようになります。
- Autostart 機能は使用しないでください。Siebel ゲートウェイまたは Siebel サーバーのインストール時に、このパラメータの構成を求められたときには、**Autostart=NO** を指定します。

データサービスの標準構成

ここに示す標準構成を使用して、Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成の計画を行なってください。Sun Cluster HA for Siebel は、この節で説明する標準構成をサポートします。Sun Cluster HA for Siebel は、追加構成もサポートできる場合があります。ただし、Sun サービスプロバイダに連絡し、他の構成に関する情報を得る必要があります。

図 1 に、Sun Cluster HA for Siebel を使用する可能な構成を示します。Siebel サーバーと Siebel ゲートウェイはフェイルオーバーデータサービスとして構成されています。

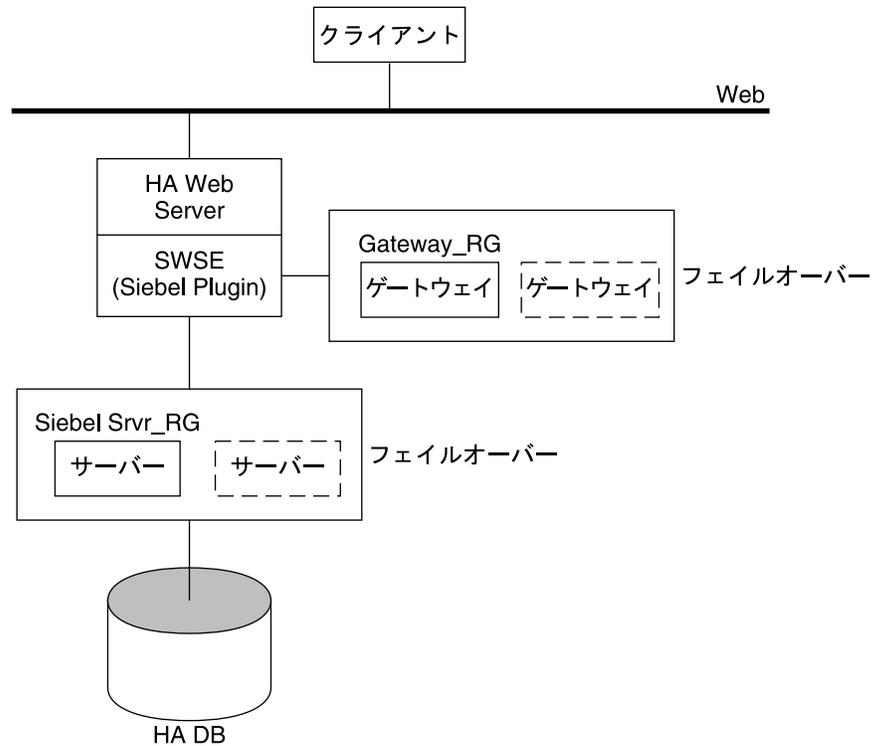


図 1 Siebel の標準構成

構成計画に関する質問

ここで示す質問に基づいて、Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成の計画を行なってください。これらの質問に対する答えは、『Sun Cluster データサービスの計画と管理 (Solaris OS 版)』の付録 C 「データサービス構成のワークシートと記入例」に記載されているデータサービスワークシートに記入します。

- 次のリソースの論理ホスト名は何ですか。Siebel ゲートウェイと Siebel サーバー
- システム構成ファイルはどこに置きますか。

Siebel バイナリをローカルファイルシステムに置く場合とクラスターファイルシステムに置く場合のメリットとデメリットについては、『Sun Cluster データサービスの計画と管理 (Solaris OS 版)』の「Sun Cluster データサービス構成のガイドライン」を参照してください。

ノードとディスクの準備

ここでは、ノードとディスクを準備する手順について説明します。

▼ ノードを準備する

次の手順で、Siebel のインストールと構成の準備を行なってください。

- 手順 1. すべてのノードでスーパーユーザーになります。
2. `/etc/nsswitch.conf` ファイルを次のように構成します。これによって、スイッチオーバーやフェイルオーバーが起こったときに、**Sun Cluster HA for Siebel** の起動と停止が正しく行われます。

Sun Cluster HA for Siebel が動作する論理ホストをマスターできる各ノードで、`/etc/nsswitch.conf` ファイルに次のエントリを指定します。

```
passwd:    files nis [TRYAGAIN=0]
publickey: files nis [TRYAGAIN=0]
project:   files nis [TRYAGAIN=0]
group:     files
```

Sun Cluster HA for Siebel では、`su - user` コマンドを使用して、サービスの起動、停止、および検証を行います。

クラスタノードのパブリックネットワークに障害が発生すると、ネットワーク情報ネームサービスが使用不能になることがあります。上記エントリを追加しておくことによって、ネットワーク情報ネームサービスが使用不能の場合に、`su (1M)` コマンドが NIS/NIS+ ネームサービスを参照しなくなります。

3. **Siebel** ゲートウェイの検証機能が、`/home` 上のファイルを開こうとしているときにタイムアウトしないようにします。

Siebel ゲートウェイが動作しているノードに、NFS または NIS といったネットワークリソースに依存する `/home` から始まるパスが設定されているときに、パブリックネットワークで障害が発生すると、Siebel ゲートウェイの検証機能がタイムアウトして、Siebel ゲートウェイリソースがオフラインになってしまいます。パブリックネットワークを利用できないと、Siebel ゲートウェイの検証機能は `/home` 上のファイルを開こうとしてハングアップし、検証機能がタイムアウトします。

`/home` 上のファイルを開こうとしているときに、Siebel ゲートウェイの検証機能がタイムアウトしないようにするには、Siebel ゲートウェイになりえるすべてのクラスタノードを次のように構成します。

- a. `/home` から始まるパスに関して、NFS または NIS へのあらゆる依存関係を排除します。

この場合、`/home` パスをローカルにマウントすることも、`/home` マウントポイントを `/export/home` または `/home` から始まらない別の名前に変更すること

もできます。

- b. `/etc/auto_master` ファイルで `+auto_master` の含まれる行をコメントアウトして、`/home` エントリがあればすべて `auto_home` に変更します。
 - c. `/etc/auto_home` ファイルで `+auto_home` の含まれる行をコメントアウトします。
4. Siebel 管理者のホームディレクトリを準備します。
 5. 各ノードで、データベース管理者グループのエントリを `/etc/group` ファイルに作成し、グループへの登録が必要なユーザーをグループに追加します。

ヒント - 次の例では、Siebel 管理者グループの名前は `siebel` です。

Sun Cluster HA for Siebel を実行するすべてのノードでグループ ID が同じであることを確認します。

```
siebel:*:521:siebel
```

グループエントリをネットワークネームサービスに作成することができます。その場合には、ネットワークネームサービスに依存するのを避けるために、これらのエントリをローカルの `/etc/inet/hosts` ファイルにも追加します。

6. 各ノードで、**Siebel** 管理者のエントリを作成します。

ヒント - 次の例では、Siebel 管理者名は `siebel` です。

次のコマンドでは、`/etc/passwd` と `/etc/shadow` ファイルを Siebel 管理者のエントリで更新します。

```
# useradd -u 121 -g siebel -s /bin/ksh -d /Siebel-home siebel
```

Siebel ユーザーエントリが Sun Cluster HA for Siebel の動作するすべてのノードで同じであることを確認します。

7. Siebel 管理者のデフォルトの環境に Siebel データベースにアクセスするための設定値が含まれていることを確認します。たとえば、Siebel データベースが Oracle 上にある場合、`.profile` ファイルに指定されている可能性のあるエントリは、次のとおりです。

```
export ORACLE_HOME=/global/oracle/OraHome
export PATH=$PATH:$ORACLE_HOME/bin
export LD_LIBRARY_PATH=$ORACLE_HOME/lib:/usr/lib
export TNS_ADMIN=$ORACLE_HOME/network/admin
export ORACLE_SID=siebdb
```

8. 論理ホスト名と **Siebel** ゲートウェイリソースを維持するフェイルオーバーリソースグループを作成します。

```
# scrgadm -a -g failover-rg [-h nodelist]
```

9. 論理ホスト名リソースを追加します。

論理ホスト名は、Siebel ゲートウェイと Siebel サーバーの `siebenv.sh` ファイルで設定された `SIEBEL_GATEWAY` 環境変数の値と一致していなければなりません。

```
# scrgadm -a -L -g failover-rg -l logical_hostname
```

10. リソースグループをオンラインにします。

```
# scswitch -Z -g failover-rg
```

11. 必要な論理ホスト名ごとに、手順 8 から手順 10 までを繰り返します。

Siebel アプリケーションのインストールと構成

ここでは Siebel アプリケーションをインストールして構成する手順について説明します。Siebel アプリケーションをインストールするには、Siebel ゲートウェイ、Siebel サーバー、および Siebel データベースをインストールする必要があります。

Siebel アプリケーションをインストールするには、構成に関する次の情報が必要になります。

- ゲートウェイとサーバーのルートディレクトリ (インストール先)
- Siebel ゲートウェイと Siebel サーバーの論理ホスト名 (別々にフェイルオーバーさせる場合は、Siebel サーバーインスタンスごとに 1 つずつの論理ホスト名)
これらのアドレスを構成し、オンラインにしなければなりません。

以下、Siebel アプリケーションのインストール手順について説明します。

- 18 ページの「Siebel ゲートウェイのインストール」
- 21 ページの「Siebel サーバーと Siebel データベースのインストール」

Siebel ゲートウェイのインストール

Siebel ゲートウェイは、広域ファイルシステムまたは物理ホストのローカルディスクのどちらにでもインストールできます。次のどちらか一方の手順で、Siebel ゲートウェイをインストールします。

- 19 ページの「広域ファイルシステムに Siebel ゲートウェイをインストールする」
- 19 ページの「物理ホストのローカルディスクに Siebel ゲートウェイをインストールする」

▼ 広域ファイルシステムに Siebel ゲートウェイをインストールする

次の手順で、Siebel ゲートウェイを広域ファイルシステムにインストールします。Siebel ゲートウェイを物理ホストのローカルディスクにインストールする場合は、19 ページの「物理ホストのローカルディスクに Siebel ゲートウェイをインストールする」を参照してください。

広域ファイルシステムに Siebel ゲートウェイをインストールする場合は、クラスタの任意のノードから 1 回だけ Siebel ソフトウェアをインストールします。

- 手順
1. **Siebel** のインストールマニュアルと最新のリリースノートに記載されている手順で、**Siebel** ゲートウェイをインストールします。
Autostart 機能は使用しないでください。プロンプトに対して、**Autostart=NO** を指定します。
 2. **siebenv.sh** ファイルが *gateway_root* の下にあり、**Siebel** ゲートウェイを起動するユーザーによって所有されていることを確認します。
 3. **Siebel** ゲートウェイを起動するユーザーのホームディレクトリで、**.hushlogin** という空のファイルを作成します。
.hushlogin ファイルは、クラスタノードの公開ネットワークの障害により、サービスの起動、停止、または検証がタイムアウトすることを防ぎます。
 4. *gateway_root* の下の **siebenv.sh** ファイルと **siebenv.csh** ファイルで、**Siebel** ゲートウェイ用に選択した論理ホスト名に **SIEBEL_GATEWAY** を変更します。
 5. **Siebel** ゲートウェイを停止してから再起動し、ゲートウェイがその論理ホスト名を使用していることを確認します。

▼ 物理ホストのローカルディスクに Siebel ゲートウェイをインストールする

次の手順で、Siebel ゲートウェイを物理ホストのローカルディスクにインストールします。Siebel ゲートウェイを広域ファイルシステムにインストールする場合は、19 ページの「広域ファイルシステムに Siebel ゲートウェイをインストールする」を参照してください。

注 - 物理ホストのローカルディスクに Siebel ゲートウェイをインストールする場合は、ディレクトリ `gateway_root /sys` の可用性を高くしておく (広域ファイルシステムにインストールする) 必要があります。

- 手順
1. **Siebel** のインストールマニュアルと最新のリリースノートに記載されている手順で、いずれか **1** つのクラスタノードに **Siebel** ゲートウェイをインストールします。
Autostart 機能は使用しないでください。プロンプトに対して、**Autostart=NO** を指定します。
 2. **siebenv.sh** ファイルが `gateway_root` の下にあり、**Siebel** ゲートウェイを起動するユーザーによって所有されていることを確認します。
 3. **Siebel** ゲートウェイを起動するユーザーのホームディレクトリで、**.hushlogin** という空のファイルを作成します。
.hushlogin ファイルは、クラスタノードの公開ネットワークによるサービスの起動、停止、または検証がタイムアウトすることを防ぎます。
 4. `gateway_root` の下の **siebenv.sh** ファイルと **siebenv.csh** ファイルで、ゲートウェイ用に選択した論理ホスト名に **SIEBEL_GATEWAY** を変更します。
 5. **Siebel** ゲートウェイを停止してから再起動し、ゲートウェイがその論理ホスト名を使用していることを確認します。
 6. `gateway_root /sys` を `/global/siebel/sys` に移し、ローカルファイルシステムから広域ファイルシステムへのリンクを作成します。

```
# mv gateway_root/sys /global/siebel/sys  
# ln -s /global/siebel/sys gateway_root/sys
```
 7. 残りのすべてのクラスタノードでインストールを複製します。

```
# rdist -c gateway_root hostname:gateway_root
```
 8. **Siebel** ゲートウェイのファイルとディレクトリに関して、所有権とアクセス権がすべてのクラスタノードで同じであることを確認します。
 9. クラスタノードごとに、リンクの所有権を適切な **Siebel** ユーザーに変更します。

```
# chown -h siebel:siebel gateway_root/sys
```
 10. **Siebel** ユーザーとして、ゲートウェイが正しくインストールされて構成されているかどうかを確認します。次のコマンドでバージョンを示した文字列が戻されることを確認します。

```
$ srvredit -q -g SIEBEL_GATEWAY -e none -z -c '$Gateway.VersionString'
```

Siebel サーバーと Siebel データベースのインストール

Siebel サーバーは、広域ファイルシステムまたは物理ホストのローカルディスクのどちらにでもインストールできます。

注 - 複数の Siebel サーバーで Siebel ファイルシステムを使用する場合は、Siebel ファイルシステムを広域ファイルシステムにインストールする必要があります。

次のどちらか一方の手順で、Siebel サーバーをインストールして、Siebel サーバーと Siebel データベースを構成します。

- 21 ページの「広域ファイルシステムに Siebel サーバーと Siebel データベースをインストールする」
- 22 ページの「物理ホストのローカルディスクに Siebel サーバーと Siebel データベースをインストールする」

▼ 広域ファイルシステムに Siebel サーバーと Siebel データベースをインストールする

次の手順で、広域ファイルシステムに Siebel サーバーをインストールして、Siebel サーバーと Siebel データベースを構成します。Siebel サーバーを物理ホストのローカルディスクにインストールする場合は、22 ページの「物理ホストのローカルディスクに Siebel サーバーと Siebel データベースをインストールする」を参照してください。

広域ファイルシステムに Siebel サーバーをインストールする場合は、クラスタの任意のノードから 1 回だけソフトウェアをインストールします。

- 手順
1. **Siebel** のインストールマニュアルと最新のリリースノートに記載されている手順で、**Siebel** サーバーをインストールします。
Autostart 機能は使用しないでください。プロンプトに対して、**Autostart=No** を指定します。
ゲートウェイのホスト名を入力するように指示されたなら、Siebel ゲートウェイの論理ホスト名を入力します。
 2. **siebenv.sh** ファイルが *server_root* の下にあり、**Siebel** サーバーを起動するユーザーによって所有されていることを確認します。
 3. **Siebel** サーバーを起動するユーザーのホームディレクトリで、**.hushlogin** という空のファイルを作成します。
.hushlogin ファイルは、クラスタノードの公開ネットワークによるサービスの起動、停止、または検証がタイムアウトすることを防ぎます。

4. **HA Oracle** などのデータベースが **Siebel** に合わせて設定されていて、なおかつデータベースがオンラインになっていることを確認します。
5. **Siebel** のマニュアルを参照し、**Siebel** データベースを構成して入力します。
ODBC データソースを作成する場合 (`dbsrvr_config.ksh` スクリプトを使用)、名前を `siebsrvr_siebel_enterprise` にする必要があります。
6. **Sun Cluster HA for Siebel** 障害モニター用の **Siebel** データベースに接続する権限を指定して、データベースユーザー (例: `dbuser/dbpassword`) を作成します。
7. **Siebel** サーバーを起動するユーザーとしてログインし、**Siebel** サーバーを手動で起動します。
8. `srvrmgr` を実行して、**Siebel** サーバーの構成を変更し、**Siebel** サーバーがクラスターで動作できるようにします。
 - **Siebel 7.7** を使用している場合は、**ServerHostAddress** パラメータを **Siebel** サーバーの論理ホスト名リソースの **IP** アドレスに変更します。

```
$ srvrmgr:hasiebel> change param ServerHostAddress=lhaddr for server hasiebel
```
 - **Siebel 7.7** より前のバージョンを使用している場合は、**HOST** パラメータを **Siebel** サーバーの論理ホスト名に変更します。

```
$ srvrmgr:hasiebel> change param Host=llname for server hasiebel
```

注 - これらの変更は、Sun Cluster の制御下で Siebel サーバーが起動すると有効になります。

▼ 物理ホストのローカルディスクに Siebel サーバーと Siebel データベースをインストールする

次の手順で、物理ホストのローカルディスクに Siebel サーバーをインストールして、Siebel サーバーと Siebel データベースを構成します。Siebel サーバーを広域ファイルシステムにインストールする場合は、21 ページの「[広域ファイルシステムに Siebel サーバーと Siebel データベースをインストールする](#)」を参照してください。

物理ホストのローカルディスクに Siebel サーバーをインストールする場合は、いずれか 1 つのクラスターノードにソフトウェアをインストールします。

- 手順 1. **Siebel** のインストールマニュアルと最新のリリースノートに記載されている手順で、**Siebel** サーバーをインストールします。
- Autostart 機能は使用しないでください。プロンプトに対して、**Autostart=No** を指定します。
- ゲートウェイのホスト名を入力するように指示されたなら、Siebel ゲートウェイの論理ホスト名を入力します。

2. **siebenv.sh** ファイルが *server_root* の下にあり、**Siebel** サーバーを起動するユーザーによって所有されていることを確認します。
3. **Siebel** サーバーを起動するユーザーのホームディレクトリで、**.hushlogin** という空のファイルを作成します。
.hushlogin ファイルは、クラスタノードの公開ネットワークによるサービスの起動、停止、または検証がタイムアウトすることを防ぎます。
4. **HA Oracle** などのデータベースが **Siebel** に合わせて設定されていて、なおかつデータベースがオンラインになっていることを確認します。
5. **Siebel** のマニュアルを参照し、**Siebel** データベースを構成して入力します。
ODBC データソースを作成する場合 (*dbsrvr_config.ksh* スクリプトを使用)、名前を *siebsrvr_siebel_enterprise* にする必要があります。
6. **Sun Cluster HA for Siebel** 障害モニター用の **Siebel** データベースに接続する権限を指定して、データベースユーザー (例: *dbuser/dbpassword*) を作成します。
7. **Siebel** サーバーを起動するユーザーとしてログインし、**Siebel** サーバーを手動で起動します。
8. **srvrmgr** を実行して、**Siebel** サーバーの構成を変更し、**Siebel** サーバーがクラスタで動作できるようにします。
 - **Siebel 7.7** を使用している場合は、**ServerHostAddress** パラメータを **Siebel** サーバーの論理ホスト名リソースの **IP** アドレスに変更します。

```
$ srvrmgr:hasiebel> change param ServerHostAddress=lhaddr for server hasiebel
```
 - **Siebel 7.7** より前のバージョンを使用している場合は、**HOST** パラメータを **Siebel** サーバーの論理ホスト名に変更します。

```
$ srvrmgr:hasiebel> change param Host=llname for server hasiebel
```

注 - これらの変更は、Sun Cluster の制御下で Siebel サーバーが起動すると有効になります。

9. 残りのすべてのクラスタノードでインストールを複製します。

```
# rdist -c server_root hostname:server_root
```
10. **Siebel** ゲートウェイのファイルとディレクトリに関して、所有権とアクセス権がすべてのクラスタノードで同じであることを確認します。

Siebel のインストールと構成の確認

ここでは、Siebel のインストールと構成を確認する手順について説明します。

▼ Siebel のインストールと構成を確認する

次の手順で Siebel ゲートウェイ、Siebel サーバー、および Siebel データベースのインストールと構成を確認します。データサービスをまだインストールしていないため、この手順ではアプリケーションの可用性が高いかどうかを確認することはできません。

- 手順
1. リソース (複数可) をオンラインにする予定のノード上で、論理ホスト名がオンラインになっていることを確認します。
 2. Siebel ゲートウェイを起動するユーザーとして、Siebel ゲートウェイを手動で起動します。
 3. Siebel サーバーを起動するユーザーとして、Siebel サーバーを手動で起動します。
 4. `odbcsql` を使用して、Siebel データベースに接続できるかどうかを確認します。

```
# odbcsql /s siebsrvr_siebel_enterprise /u dbuser /p dbpassword
```

5. `srvrmgr` の `list servers` サブコマンドを実行します。

Siebel サーバーの可用性を高く構成する前、Siebel サーバーの `HOST_NAME` パラメータには物理ホスト名が表示されます。

Siebel サーバーの可用性を高く構成したあと、このコマンドの出力は、使用している Siebel のバージョンによって異なります。

- Siebel 7.7 を使用している場合、Siebel サーバーの `HOST_NAME` パラメータには、Siebel サーバーが動作しているノードの「物理」ホスト名が表示されます。したがって、このコマンドを実行するたびに、Siebel サーバーリソースがフェイルオーバーまたはスイッチオーバーしているかどうかによって、異なる名前が表示される可能性があります。
- Siebel 7.7 より前のバージョンを使用している場合、Siebel サーバーの `HOST_NAME` パラメータには「論理」ホスト名が表示されます。

6. Siebel 7.7 を使用している場合は、`serverhostaddress` パラメータに Siebel サーバーの論理ホスト名リソースの IP アドレスが設定されていることを確認します。

```
$ srvrmgr:hasiebel> list advanced param serverhostaddress
```

7. Siebel の専用クライアントとサポート対象の `thin` クライアント (ブラウザ) を使用して、販売、コールセンターなどの各種 Siebel ユーザーセッションをテストしま

す。

8. **Siebel** サーバーを起動したユーザーとして、**Siebel** サーバーを手動で停止します。
9. **Siebel** ゲートウェイを起動したユーザーとして、**Siebel** ゲートウェイを手動で停止します。

Sun Cluster HA for Siebel パッケージのインストール

Sun Cluster の初回のインストール時に Sun Cluster HA for Siebel パッケージをインストールしなかった場合は、この手順でパッケージをインストールしてください。この手順は、Sun Cluster HA for Siebel パッケージをインストールする各クラスタノード上で個別に実行します。この手順の実行には、Sun Cluster Agents CD-ROM が必要です。

同時に複数のデータサービスをインストールする場合は、『Sun Cluster ソフトウェアのインストール (Solaris OS 版)』の「ソフトウェアのインストール」で説明する手順を行います。

次のインストールツールのどちらかを使用して、Sun Cluster HA for Siebel パッケージをインストールします。

- Web Start プログラム
- `scinstall` ユーティリティ

注 - Solaris 10 を使用している場合は、これらのパッケージを大域ゾーンだけにインストールします。パッケージをインストールしたあとで作成されたローカルゾーンにこれらのパッケージが転送されないようにするには、`scinstall` ユーティリティを使用してパッケージをインストールしてください。Web Start プログラムは使用しないでください。

▼ Web Start プログラムを使って Sun Cluster HA for Siebel パッケージをインストールするには

Web Start プログラムは、コマンド行インタフェース (CLI) またはグラフィカルユーザーインタフェース (GUI) を使用して実行できます。CLI と GUI での作業の内容と手順はほとんど同じです。Web Start プログラムについての詳細は、`installer(1M)` のマニュアルページを参照してください。

- 手順
1. **Sun Cluster HA for Siebel** パッケージをインストールするクラスタノード上で、スーパーユーザーになります。
 2. (省略可能) GUI で **Web Start** プログラムを実行する場合は、**DISPLAY** 環境変数が設定されていることを確認してください。
 3. **CD-ROM** ドライブに **Sun Cluster Agents CD-ROM** を挿入します。
ボリューム管理デーモン `vol1d(1M)` が実行されており、**CD-ROM** デバイスを管理するように構成されている場合は、デーモンによって **CD-ROM** が自動的に `/cdrom/cdrom0` ディレクトリにマウントされます。
 4. **CD-ROM** の **Sun Cluster HA for Siebel** コンポーネントディレクトリに切り替えます。
Sun Cluster HA for Siebel データサービスの **Web Start** プログラムは、このディレクトリに入っています。

```
# cd /cdrom/cdrom0/components/SunCluster_HA_Siebel_3.1/
```
 5. **Web Start** プログラムを起動します。

```
# ./installer
```
 6. プロンプトが表示されたら、インストールの種類を選択します。
 - C ロケールのみをインストールする場合は、「一般」を選択します。
 - ほかのロケールをインストールする場合は、「カスタム」を選択します。
 7. 表示される手順に従って、ノードに **Sun Cluster HA for Siebel** パッケージをインストールします。
インストールが終了すると、**Web Start** プログラムのインストールサマリーが出力されます。この出力を使用して、インストール時に **Web Start** によって作成されたログを確認できます。これらのログは、`/var/sadm/install/logs` ディレクトリにあります。
 8. **Web Start** プログラムを終了します。
 9. **Sun Cluster Agents CD-ROM** を **CD-ROM** ドライブから取り出します。
 - a. **CD-ROM** が使用されないように、**CD-ROM** 上のディレクトリ以外に移動します。
 - b. **CD-ROM** を取り出します。

```
# eject cdrom
```

▼ `scinstall` ユーティリティーを使用して Sun Cluster HA for Siebel パッケージをインストールする

- 手順
1. **CD-ROM** ドライブに **Sun Cluster Agents CD-ROM** をロードします。
 2. オプションは指定せずに、**scinstall** ユーティリティーを実行します。
`scinstall` ユーティリティーが対話型モードで起動します。
 3. メニューオプション「新しいデータサービスのサポートをこのクラスタノードに追加」を選択します。
`scinstall` ユーティリティーにより、ほかの情報を入力するためのプロンプトが表示されます。
 4. **Sun Cluster Agents CD-ROM** のパスを指定します。
ユーティリティーはこの CD-ROM をデータサービス CD-ROM として示します。
 5. インストールするデータサービスを指定します。
選択したデータサービスが `scinstall` ユーティリティーによって示され、この選択内容の確認が求められます。
 6. **scinstall** ユーティリティーを終了します。
 7. ドライブから **CD-ROM** を取り出します。

Sun Cluster HA for Siebel の登録と構成

ここでは、Sun Cluster HA for Siebel を構成する手順について説明します。

Sun Cluster HA for Siebel 拡張プロパティの設定

以下の各項ではリソースの登録と構成について説明します。これらの説明は、設定が必要な Sun Cluster HA for Siebel の拡張プロパティに限られています。すべての Sun Cluster HA for Siebel 拡張プロパティについては、[付録 A](#) を参照してください。拡張プロパティの中には動的に変更できるものがあります。ただし、それ以外の拡張プロパティは、リソースを作成するか無効にするときにしか更新できません。「調整可能」の欄には、そのプロパティをいつ変更できるかが示されています。

リソースの拡張プロパティを設定する際には、リソースを作成または変更する `scrgadm(1M)` コマンドに次のオプションを指定する必要があります。

`-x property=value`

`-x property` 設定する拡張プロパティを指定します。

`value` 設定する拡張プロパティの値を指定します。

これらのリソースを作成したあとにリソースを構成する場合は、『Sun Cluster データサービスの計画と管理 (Solaris OS 版)』の第 2 章「データサービスリソースの管理」で説明する手順も使用できます。

▼ Sun Cluster HA for Siebel をフェイルオーバーデータサービスとして登録して構成する

次の手順に従って、Sun Cluster HA for Siebel をフェイルオーバーデータサービスとして構成します。この手順では、データサービスパッケージはインストール済みであると想定しています。Sun Cluster HA for Siebel パッケージがまだインストールされていない場合は、25 ページの「Sun Cluster HA for Siebel パッケージのインストール」を参照して、これらのパッケージをインストールします。それ以外の場合は、次の手順で Sun Cluster HA for Siebel を構成します。

- 手順
1. アプリケーションサーバーを格納するクラスタノードの 1 つでスーパーユーザーになります。
 2. Siebel ゲートウェイのリソースタイプを追加します。

```
# scrgadm -a -t SUNW.sblgtwy
```
 3. 論理ホスト名と Siebel ゲートウェイリソースを維持するフェイルオーバーリソースグループを作成します。

注 - 16 ページの「ノードを準備する」の手順を完了した時点で、すでに、リソースグループを作成し、論理ホスト名リソースを追加し、リソースグループをオンラインにしている場合は、手順 6 に進んでもかまいません。

```
# scrgadm -a -g gateway-rg [-h nodelist]
```

4. 論理ホスト名リソースを追加します。
論理ホスト名が、Siebel ゲートウェイと Siebel サーバーの `siebenv.sh` ファイルで設定された `SIEBEL_GATEWAY` 環境変数の値と一致していることを確認します。

```
# scrgadm -a -L -g gateway-rg -l logical_hostname
```
5. リソースグループをオンラインにします。

```
# scswitch -Z -g gateway-rg
```

6. `siebenv.sh` ファイルが `gateway_root` の下にあるかどうかを確認します。
Siebel リソースがオンラインになると、このファイルの所有者が Siebel ゲートウェイサーバーを起動します。
7. Siebel ゲートウェイリソースを作成します。

```
# scrgadm -a -j sblgtwy-rs -g gateway-rg \  
-t SUNW.sblgtwy \  
-x Confdir_list=gateway_root
```
8. Siebel ゲートウェイリソースを有効にします。

```
# scswitch -e -j sblgtwy-rs
```
9. `scstat -g` と `ps -ef` を使用して、Siebel リソースグループと Siebel ゲートウェイリソースがオンラインかどうかを確認します。

▼ Siebel サーバーを登録して構成する

- 手順 1. Siebel サーバーのリソースタイプを追加します。

```
# scrgadm -a -t SUNW.sblsrvr
```

2. 論理ホスト名と Siebel サーバーリソースを維持するフェイルオーバーリソースグループを作成します。

注 - 16 ページの「ノードを準備する」の手順を完了した時点で、すでに、リソースグループを作成し、論理ホスト名リソースを追加し、リソースグループをオンラインにしている場合は、手順 5 に進んでもかまいません。

```
# scrgadm -a -g siebel-rg [-h nodelist]
```

3. 論理ホスト名リソースを追加します。
この論理ホスト名は、Siebel サーバーに対応する `HOST_NAME` パラメータの値と一致させるべきです。

```
# scrgadm -a -L -g siebel-rg -l logical-hostname
```

4. リソースグループをオンラインにします。
次のコマンドを使用して、優先ノードでリソースグループをオンラインにします。

```
# scswitch -Z -g siebel-rg
```

5. `siebenv.sh` ファイルが `server_root` の下にあるかどうかを確認します。

6. **siebenv.sh** の所有者が所有する **scsblconfig** というファイルを *server_root* の下に作成します。

Siebel サーバーをローカルにインストールしている場合は、すべてのノードで、ファイル **scsblconfig** を *server_root* の下に作成します。

セキュリティ上の理由から、所有者だけがこのファイルを読めるようにします。

```
# cd server_root
# touch scsblconfig
# chown siebel:siebel scsblconfig
# chmod 400 scsblconfig
```

7. **Sun Cluster HA for Siebel** 障害モニター用のデータベースに接続する権限を指定して、データベースユーザー (例: **dbuser/dbuserpassword**) を選択します。

8. **svrvmgr** で **compgrps** コマンドを実行する権限を指定して、別の Siebel ユーザー (例: **sadmin/sadminpassword**) を選択します。

9. 次のエントリを **scsblconfig** ファイルに追加します。

```
export DBUSR=dbuser
export DBPWD=dbuserpassword
export SADMUSR=sadmin
export SADMPWD=sadminpassword
```

10. Siebel サーバーリソースを作成します。

```
# scrgadm -a -j sblsrvr-rs -g siebel-rg \
-t SUNW.sblsrvr \
-x Confdir_list=server_root \
-x siebel_enterprise=siebel enterprise name \
-x siebel_server=siebel server name
```



注意 - **siebel_enterprise** または **siebel_server** に誤った値を入力しても、妥当性検査時にエラーは発生しません。しかし、リソースの起動は失敗します。**siebel_enterprise** が誤っていると、**validate** メソッドはデータベースが接続可能かどうかを検証できず、警告だけが生成されます。

11. Siebel サーバーリソースを有効にします。

```
# scswitch -e -j sblsrvr-rs
```

12. **scstat -g** コマンドと **ps -ef** コマンドを使用して、リソースグループと Siebel サーバーリソースがオンラインかどうかを確認します。

Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成の確認

ここでは、データサービスが正しくインストールされ構成されているかどうかを確認する手順について説明します。

▼ Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成を確認する

次の手順で、Sun Cluster HA for Siebel が正しくインストールされ、構成されているかどうかを確認します。

- 手順
1. クラスタ上で **Siebel** データベースリソース、**Siebel** ゲートウェイリソース、および **Siebel** サーバーリソースをオンラインにします。
 2. **Siebel** サーバーがオンラインのノードにログインします。
 3. 障害モニターが正常に機能していることを確認します。
 4. **svrvmgr** を起動し、サブコマンド **list compgrps** を実行します。
 5. 必要な **Siebel** コンポーネントが有効になっているかどうかを確認します。
 6. サポート対象の **thin** クライアント (ブラウザ) を使用して **Siebel** に接続し、セッションを実行します。
 7. ユーザー **root** として、**Siebel** リソースグループを別のノードに切り替えます。

```
# scswitch -z -g siebel-rg -h node2
```
 8. **Siebel** サーバーリソースが動作できる潜在ノードごとに、手順 4、手順 5、および手順 6 を繰り返します。
 9. ユーザー **root** として、**Siebel** ゲートウェイリソースグループを別のノードに切り替えます。

```
# scswitch -z -g gateway-rg -h node2
```

Sun Cluster HA for Siebel の保守

ここでは Sun Cluster HA for Siebel の保守についての指針を示します。

- Siebel リソースを保守する場合は、Siebel リソース (複数可) を無効にするか、または次のコマンドの 1 つを使用して、Siebel リソースグループ (複数可) を非管理状態にします。
 - `scswitch -j resource`
 - `scswitch -g resource_group`
- Siebel リソースを起動する場合は、リソースを無効にして、なおかつ論理ホスト名をオンラインにしたまま、Siebel リソースを手動で起動します。



注意 - リソースを無効にしたり、リソースグループを非管理状態にすることなく、Siebel サーバーを手動で起動すると、Sun Cluster の制御下でリソースの起動を試行したノード上のサービスを Siebel リソース起動メソッドが「リセット」してしまう可能性があります。これは予想外の結果を引き起こします。

Sun Cluster HA for Siebel 障害モニター の調整

Sun Cluster HA for Siebel データサービスの障害監視は、次の障害モニターによって提供されます。

- Siebel サーバーの障害モニター
- Siebel ゲートウェイの障害モニター

次の表に、それぞれの障害モニターが含まれるリソースのリソースタイプを示します。

表 3 Sun Cluster HA for Siebel 障害モニターのリソースタイプ

| 障害モニター | リソースタイプ |
|---------------|--------------|
| Siebel サーバー | SUNW.sblsrvr |
| Siebel ゲートウェイ | SUNW.sblgtwy |

障害モニターの動作は、これらのリソースのシステムプロパティと拡張プロパティによって制御されます。事前に設定された障害モニターの動作は、これらのプロパティのデフォルト値に基づいています。現在の動作は、ほとんどの Sun Cluster システムに適しているはずですが、したがって、Sun Cluster HA for Siebel 障害モニターを調整するのは、事前に設定されたこの動作を変更したい場合「だけに」留めるべきです。

Sun Cluster HA for Siebel 障害モニターの調整では次のことを行います。

- 障害モニターの検証間隔を設定する。
- 障害モニターの検証タイムアウトを設定する。
- 継続的な障害とみなす基準を定義する。
- リソースのフェイルオーバー動作を指定する。

詳細は、『Sun Cluster データサービスの計画と管理 (Solaris OS 版)』の「Sun Cluster データサービス用に障害モニターを調整する」を参照してください。以降の項では、これらの作業を実行するのに必要な Sun Cluster HA for Siebel 障害モニターについて説明します。

Sun Cluster HA for Siebel 障害モニターの調整は、Sun Cluster HA for Siebel の登録と構成を行うときに実施します。詳細は、27 ページの「Sun Cluster HA for Siebel の登録と構成」を参照してください。

Siebel サーバーの障害モニターの動作

検証中、Siebel サーバーの障害モニターは、次のコンポーネントが正常に動作するかどうかをテストします。

■ Siebel データベース

Siebel データベースで障害が発生すると、Siebel サーバーの状態が DEGRADED に設定されます。Siebel データベースが改めて再起動したときに、Siebel サーバーリソースの検証機能が Siebel サーバーが動作しているかどうかを調べようとし、このテストに失敗すると、Siebel サーバーは再起動するか、または別のノードにフェイルオーバーされます。

Siebel サーバーリソースが起動されると、Siebel データベースは使用不能になる可能性があります。この状況では、Siebel データベースが使用可能になったとき、障害モニターは Siebel サーバーも起動します。

■ Siebel ゲートウェイ

Siebel ゲートウェイで障害が発生すると、Siebel サーバーの状態が DEGRADED に設定されます。Siebel ゲートウェイが改めて再起動したときに、Siebel サーバーリソースの検証機能が Siebel サーバーが動作しているかどうかを調べようとし、このテストに失敗した場合、Siebel サーバーは再起動するか、または別のノードにフェイルオーバーされます。

Siebel サーバーリソースが起動されると、Siebel ゲートウェイは使用不能になる可能性があります。この状況では、Siebel ゲートウェイが使用可能になったとき、障害モニターは Siebel サーバーも起動します。

- Siebel サーバーとその有効なコンポーネントすべて

Siebel サーバーで障害が発生すると、サーバーは再起動するか、または別のノードにフェイルオーバーされます。Siebel コンポーネントのどれかで障害が発生すると、部分的な障害が報告されます。障害モニターは、この部分的な障害を完全な障害の 10% であると見なします。

注 - Siebel サーバーの障害モニターがコンポーネントの障害を検出できるのは、Siebel の英語インストールだけです。

Siebel ゲートウェイの障害モニターの動作

Siebel ゲートウェイの障害モニターは、Siebel ゲートウェイのプロセスを監視します。Siebel ゲートウェイプロセスが停止すると、障害モニターがそのプロセスを再起動するか、または別のノードにフェイルオーバーします。

Sun Cluster HA for Siebel 拡張プロパティ

以下の各節で、Sun Cluster HA for Siebel リソースタイプの拡張プロパティについて説明します。

- 35 ページの「SUNW.sblsrvr 拡張プロパティ」
- 37 ページの「SUNW.sblgtwy 拡張プロパティ」

システム定義のプロパティについての詳細は、`r_properties(5)` と `rg_properties(5)` のマニュアルページを参照してください。

SUNW.sblsrvr 拡張プロパティ

SUNW.sblsrvr リソースタイプは、Sun Cluster 構成に組み込まれた Siebel サーバーを意味します。このリソースタイプには、次のような拡張プロパティが設定されません。

Confdir_list

このプロパティには、Siebel サーバーのルートディレクトリに対するパス名を指定します。

データタイプ: 文字列配列

初期値: なし

調整: 作成時

Monitor_retry_count

このプロパティは、障害モニターの再起動を制御します。このプロパティは、プロセスモニター機能が障害モニターを再起動する回数を示します。これは、`pmfd(1M)` コマンドに指定する `-n` オプションに相当します。再起動回数のカウンタは、指定されたタイムウィンドウで行われます (`Monitor_retry_interval` を参照)。このプロパティは、障害モニター自身の再起動を制御するのであって、

Siebel サーバーの再起動を制御するわけではありません。Siebel サーバーの再起動は、システム定義プロパティ `Thorough_Probe_Interval`、`Retry_Interval`、および `Retry_Count` によって、各プロパティの説明に記載されているとおりに制御されます。 `r_properties(5)` を参照してください。

データタイプ: 整数

初期値: 4

調整: 任意の時点

`Monitor_retry_interval`

このプロパティには、障害モニターに発生する障害をカウントし続ける時間 (分単位) を指定します。これは `pmfadm` コマンドで指定する `-t` オプションに相当します。障害モニターでの障害発生数が `Monitor_retry_count` の指定値を超過すると、プロセスモニター機能による障害モニターの再起動は行われなくなります。

データタイプ: 整数

初期値: 2

調整: 任意の時点

`Probe_timeout`

このプロパティには、障害モニターが Siebel サーバーインスタンスの検証に使用するタイムアウト値 (秒単位) を指定します。

データタイプ: 整数

初期値: 300

調整: 任意の時点

`Siebel_enterprise`

このプロパティには Siebel enterprise の名前を指定します。

データタイプ: 文字列配列

初期値: なし

調整: 作成時

`Siebel_server`

このプロパティには、Siebel サーバーの名前を指定します。

データタイプ: 文字列配列

初期値: なし

調整: 作成時

SUNW.sblgtwy 拡張プロパティ

SUNW.sblgtwy リソースタイプは、Sun Cluster 構成に組み込まれた Siebel ゲートウェイを意味します。このリソースタイプには、次のような拡張プロパティが設定されます。

Confdir_list

このプロパティには、Siebel ゲートウェイのルートディレクトリに対するパス名を指定します。

データタイプ: 文字列配列

初期値: なし

調整: 作成時

Monitor_retry_count

このプロパティは、障害モニターの再起動を制御します。このプロパティは、プロセスモニター機能が障害モニターを再起動する回数を示します。これは、pmfd(1M) コマンドに指定する -n オプションに相当します。再起動回数のカウントは、指定されたタイムウィンドウで行われます (Monitor_retry_interval を参照)。このプロパティは、障害モニター自身の再起動を制御するのであって、Siebel ゲートウェイの再起動を制御するわけではありません。Siebel ゲートウェイの再起動は、システム定義プロパティの Thorough_Probe_Interval と Retry_Interval で制御します。r_properties(5) を参照してください。

データタイプ: 整数

初期値: 4

調整: 任意の時点

Monitor_retry_interval

このプロパティには、障害モニターに発生する障害をカウントし続ける時間 (分単位) を指定します。これは pmfadm コマンドで指定する -t オプションに相当します。障害モニターでの障害発生数が、拡張プロパティ Monitor_retry_count の指定値を超過すると、プロセスモニター機能による障害モニターの再起動は行われなくなります。

データタイプ: 整数

初期値: 2

調整: 任意の時点

Probe_timeout

このプロパティには、障害モニターが Siebel ゲートウェイインスタンスの検証に使用するタイムアウト値 (秒単位) を指定します。

データタイプ: 整数

初期値: 120

調整: 任意の時点

索引

C

Confdir_list 拡張プロパティ
SUNW.sblgtwy リソースタイプ, 37
SUNW.sblsrvr リソースタイプ, 35
C ロケール, 26

H

.hushlogin ファイル
Siebel ゲートウェイユーザー, 19, 20
Siebel サーバーユーザー, 21, 23

M

Monitor_retry_count 拡張プロパティ
SUNW.sblgtwy リソースタイプ, 37
SUNW.sblsrvr リソースタイプ, 35
Monitor_retry_interval 拡張プロパティ
SUNW.sblgtwy リソースタイプ, 37
SUNW.sblsrvr リソースタイプ, 36

P

Probe_timeout 拡張プロパティ
SUNW.sblgtwy リソースタイプ, 37
SUNW.sblsrvr リソースタイプ, 36
prtconf -v コマンド, 9
prtdiag -v コマンド, 9
psrinfo -v コマンド, 9

S

scinstall -pv コマンド, 9
showrev -p コマンド, 9
Siebel
「Sun Cluster HA for Siebel」も参照
インストール
Siebel ゲートウェイ, 18-20
Siebel サーバーと Siebel データベース, 21-23
概要, 18-23
広域ファイルシステムへのインストール, 19, 21-22
ノードの準備, 16-18
物理ホストのローカルディスクへのインストール, 19-20, 22-23
インストールの確認, 24-25
siebel_enterprise 拡張プロパティ, 36
siebel_server 拡張プロパティ, 36
Sun Cluster HA for Siebel
「Siebel」も参照
Siebel コンポーネントの保護, 12
インストール
scinstall ユーティリティの使用による, 27
Web Start プログラムの使用による, 25-26
計画, 13-15
インストールの確認, 31
概要, 11-12
構成
計画, 13-15, 15
標準, 14-15
要件, 13-14, 14
障害モニター, 32-34

Sun Cluster HA for Siebel (続き)

登録と構成, 28-29

Siebel サーバー, 29-30

保守, 32

SUNW.sblgtwy リソースタイプ, 拡張プロパ
ティ, 37-38

SUNW.sblsrvr リソースタイプ, 拡張プロパ
ティ, 35-36

V

/var/sadm/install/logs ディレクトリ, 26

W

Web Start プログラム, 25-26

い

インストール

Siebel ゲートウェイ

広域ファイルシステム, 19

物理ホストのローカルディスク, 19-20

要件, 18

Siebel サーバーと Siebel データベース

広域ファイルシステム, 21-22

物理ホストのローカルディスク, 22-23

要件, 18

Sun Cluster HA for Siebel

scinstall ユーティリティの使用によ
る, 27

Web Start プログラムの使用による, 25-26

作成されたログファイル, 26

か

概要, Sun Cluster HA for Siebel, 11-12

拡張プロパティ

SUNW.sblgtwy リソースタイプ, 37-38

SUNW.sblsrvr リソースタイプ, 35-36

確認

Siebel インストール, 24-25

Sun Cluster HA for Siebel, 31

こ

構成

Sun Cluster HA for Siebel, 28-29

Siebel サーバー, 29-30

コマンド, ノード情報, 9

し

システムプロパティ, 障害モニターへの影
響, 33

障害モニター

Siebel ゲートウェイ, 34

Siebel サーバー, 33-34

調整, 32-34

せ

制限, ゾーン, 25

そ

ゾーン, 25

た

大域ゾーン, 25

ち

調整, 障害モニター, 32-34

て

ディレクトリ,

/var/sadm/install/logs, 26

と

登録

Sun Cluster HA for Siebel, 28-29, 29-30

ふ

ファイル

.hushlogin

 Siebel ゲートウェイユーザー, 19, 20

 Siebel サーバーユーザー, 21, 23

インストールログ, 26

ほ

保守, Sun Cluster HA for Siebel, 32

り

リソースタイプ

SUNW.sblgtwy

 拡張プロパティ, 37-38

SUNW.sblsrvr

 拡張プロパティ, 35-36

障害モニター, 32

ろ

ローカルゾーン, 25

ログファイル, インストール, 26

ロケール, 26

